

獣医学履修者の進路：
現状分析と課題
(学生向け資料)

目次

- ① 小動物臨床分野
(岐阜大学:北川、岩手大学:佐藤れ)
- ② 産業動物臨床分野
(岩手大学:佐藤繁)
- ③ 公衆衛生分野・行政分野(公務員獣医師)
(岐阜大学:杉山、東京大学:杉浦)
- ④ ライフサイエンス分野
(東京大学:尾崎、中山)
- ⑤ 国立または独立行政法人研究機関
(東京大学:関崎、国立感染症研究所:山田、
国立医薬品食品衛生研究所:北嶋)



獣医学履修者の進路

① 小動物臨床分野

岐阜大学獣医内科学 北川 均
岩手大学獣医内科学 佐藤れえ子



小動物臨床分野

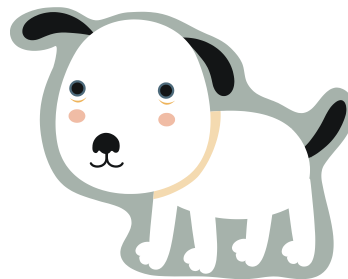
① アカデミック領域(大学)

② 一般開業獣医師

1) 研修・勤務獣医師

2) 開業獣医師

③ 専門動物診療施設(二次診療)



①アカデミック領域

臨床指向の学生にとって、アカデミックは？

・大学教員（アカデミックは実質的には大学のみ）：

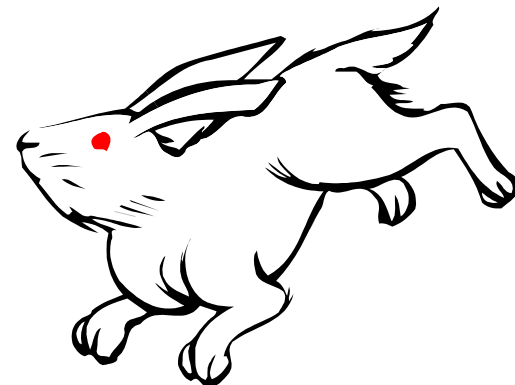
- ✓ 臨床分野は大学教員のみ 高収入は望めないが、社会的評価はそれなりに高い
- ✓ 正規助教ポストは減少（人事制度の変化）
- ✓ 任期付助教・特任助教（身分はポスドクと同じ）
- ✓ 助教の業務：動物病院診療業務が主体
 - キャリアアップには研究業績が必要
- ✓ 大学附属動物病院は二次専門診療が主体で
新卒者が研究業績を上げながら教育に必要な基本的診療技術を身につける場ではない

・大学動物病院研修獣医師

- ✓ 一般的な診療を身につけた後に、専門獣医師になるための研修機関として機能
- ✓ アカデミックポストを目指すのではなく、開業獣医師のためのステップ

・大学院生

- ✓ 臨床分野の大学院生の数は、若干増える傾向にはあるが、それほど多くない
- ✓ 大学院修了後の最初の適切なポストが少ない(特任助教であればかなりあるが、正規の助教ポストは少ない)



② 研修・勤務獣医師

入学時に最も多くの学生が希望する進路、実際にも全国の卒業生の50%が進む

- ✓ 求人が多い、たとえば岐阜大学では30名の学生に対して昨年(2010年度)175件、284名の募集
- ✓ 入学時に希望する進路として最も多いが、自分の適性との適合性が問題
- ✓ 収入(公務員並み、あるいはそれ以下)、初任給で年収250~400万円、30歳代前半でも年収500万円に届く獣医師は希、家庭を持つ余裕はない
- ✓ 勤務時間(年300日の実質勤務日数)とのバランスが悪い
- ✓ 勤務獣医師の待遇には大きな差がある: 賃金・保険・有給休暇など、病院の規模・獣医師の人数などによる差などに基づく
- ✓ 育児中または育児終了後の女性獣医師のパートタイム勤務もあり

③ 開業獣医師

- ✓ 数年の臨床研修後に開業する
- ✓ 開業資金の高騰： 数千万円
- ✓ 開業すれば他の獣医師職と比較して高収入？
 - 地域、場所による収入較差増
(数%は年収数千万円だが、多くは1000万円以下)
- ✓ 開業者数増加： 都市部では飽和に近い
 - 競争激化と収入較差の増大
- ✓ 一部に大規模の会社形式あるいはチェーン店形式の病院
- ✓ ペットショップやペット美容室を併設した複合型経営の増加
- ✓ 自由業であり定年がないのは大きなメリット

④ 専門動物診療施設（二次診療）

- ✓ 自分の専門分野だけの診療と良い待遇
- ✓ 新卒者の就職先としては不適、専門獣医師養成施設として機能
- ✓ かなりの激務？ しかし、研究業績は蓄積されない
- ✓ 社会的な位置づけ：次第に市民から専門病院として認識されるようになりつつある

日本動物高度医療センター（川崎市）

